

重長休れし腰をうりて居るをよみ聞て
 自ら成しにけりし首を投捨重長
 死しし首の毛向て下と切りとハレしを
 傍のふとちうの天筋金に切刻したの
 耳合止切りし重長たし移りて太刀控合
 切あひし重長が玉腰のふとちうをええ
 斬りしとて祐忠を中へ追ひ返し世に
 改めたるふ祐忠と血を撓まににおぬ

乃成
 不折
 之
 首
 之
 投
 捨
 重
 長

飛くく曹のまへと切々とババ

傍のふとちふ矢筋金に筋切れたの

身命正切有主長方いさふ移うつ太日たにち按おさ合あ

切^{むき}あひる重長が玉腰のものを是とせん

祐忠
 中
 追
 世

改たうふ祐血と血を撓るに於て

くる飛鳥のこころをち金の瓶ひはえ
石とて切割りたる之に枯水多くとて空の
しるしを瓶ひする如き事ひとく馬と為嫁
切有魁ふたのと申二つあるなり或る人等切
落し却きてその平首切といふ所は徳縁なる
ところを倒たそして六十路の平をとめて十三路
切ると其よりおろす所商わらう子と有るの端の袖
うしろの紐切落すとてこれに定早叶ふあり

石をさく切割りし石の
之祐也多しとて宝物

上野山にありて
馬とぞ

切有犯の事年二ツもあつたり或是にふも切

藤一或るの平首切とハ藤
 信休しんけいなる

とるに倒るるを千端と千を角七十三端

切之於長方七折之所需之日と有之山程の袖

ふとの程切原を走りて宿早叶る